



# 学校だより 神橋

令和5年1月31日

よこはましりつかみはししやうがっこう  
横浜市立神橋小学校

2月号

## 「継続は力なり」2つの力

ふくこうちやう かくの よしひろ  
副校長 角野 義宏

早いもので、2023年がスタートして1か月が経ちました。新年を機に新しいことを始めたり、新たな目標をたてたりした方もいるのではないのでしょうか。

目標を達成するには、途中で投げ出すことなく粘り強く取り組む姿勢が必要です。「継続は力なり」と表現されるように、どんな小さいことであっても努力を続けていけば、やがて成果が得られると言われています。しかし、現実には、毎日、努力しても成果が得られないことがあります。むしろ、そのほうが多いように思います。

では、どうしてそうになってしまうのでしょうか。

実は、技能の上達は努力を蓄積していけば、それに比例して上達していくものではないのです。右の図のように、技能の上達を感じられる瞬間は、突然訪れます。

体育の時間で例えると、縄跳びの二重跳びです。初めは、手と足のタイミングが合わなかったり、跳ぶ高さが足りなかったりして、難しいものです。練習をしても引っかかってばかりで、なかなか跳べるようにはなりません。それでも毎日、繰り返し練習していると、ある日突然できるようになります。そこから

は、動きが安定し、連続して跳べる回数が増え飛躍的に上達していきます。鉄棒の逆上がりなども同じです。

このような経験は、誰にでもあるのではないのでしょうか。

よく、「壁」を越えたと表現されます。「壁」とは、能力が急上昇する前までの状態（練習を続けているにもかかわらず上達を感じられない状態）のことです。

しかし、多くの場合、この「壁」を越える前に諦めてしまいます。理想と現実のギャップを「自分には能力がない」などとネガティブに受け止めてしまうからです。したがって、ある能力を上達させて行くためには、「壁」を越えるまでの水平に近い部分を、どのように乗り切るかにかかっているといっても過言ではありません。そこで粘り強く続けていく力が必要になってくるのです。

私は「継続は力なり」の力とは、継続が力になるという意味に加え、粘り強く継続できることそのものが優れた力の1つであるという、2つの力を意味しているように感じています。

子どもには成長する中で、一人ひとり違った様々な「壁」があります。あきらめずに、「継続は力なり」で粘り強く努力を続けられるようになって欲しいと思います。どの子にも壁は必ず訪れ、越える日が来るはずで、その日が来ることを信じ、継続している努力を認め、励ましていきましょう。そして、努力が結果に結びついたときには、大いに褒め、一緒に喜んでほしいと思います。その経験が、次の継続のエネルギーになります。

私は、子ども達が、いろいろな「壁」を越える瞬間が楽しみです。その瞬間まで、助言し、認め、励ますことを継続します。「継続」が「力」になることを信じて。

